

706名の方に参加していただきました



自治医科大学多地域研究ネットワーク推進事業

# JMSⅡコホート研究

に引き続き参加協力をお願いします



自治医科大学地域医療学センター

事業責任者：中村好一（公衆衛生学部門教授）

早春の候、皆さま方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。近頃地域医療のことが何かと話題になることが多く、地域医療に従事する医師を育てる大学としてますます責任の大きさを痛感しております。

健康で長生きをすることは万人の願いです。生活習慣によって起こる高血圧、糖尿病、メタボリックシンドロームなどの病気は、たとえ症状がなくても脳卒中や心筋梗塞といった病気の危険因子となるとされています。食べ過ぎや運動不足などが生活習慣病の原因となりますが、それ以外にも喫煙、飲酒、ストレスや睡眠不足など多くの生活習慣が関係していると考えられています。どんな人が脳卒中や心筋梗塞になりやすいかなどを調べる方法として、健康なうちにデータを取っておいて、何年も追跡調査をし、病気になった人となら

なかった人との間での違いを検討する方法をコホート研究と呼びます。

地域医療を実践するに当たり、その地域の健康状況を把握し、検討することは重要です。自治医科大学では、全国で卒業生が活躍しており、そのネットワークを生かして、平成4年度から17年度まで前身であるJMSコホート研究を行い、血圧の上昇やストレスなどが脳卒中や心筋梗塞の危険因子であることなどを報告してまいりました。さらに、平成15年度から5年間にわたって21世紀COEプログラム大規模地域ゲノムバンク推進事業を行いました。今回、その事業を引き継ぎ、平成2年度より「自治医科大学多地域研究ネットワーク推進事業」が開始され、その中で第2弾としてJMSⅡ「コホート研究」を行うことになりました。JMSⅡ「コホート研究」は、健診を通して住民の方の健康状

態を把握し、その後、脳卒中や心筋梗塞の発症などについて、**埠間追跡調査**を行う研究で、全国の市町村によびかけて約10,000人の参加者を募る予定です。アンケートで確認する生活習慣に加えて、血液や尿検査、さらに、遺伝の要素を加味しながら検討することを計画しています。また、今、話題になっているソーシャルキャピタル（いわゆる地域力）なども調査する予定です。

自治医科大学のある下野市でも市のご協力を得て、平成22年度は706名の市民の方にご協力をいただきました。引き続き集団健診においてJMSⅡ「コホート研究」のベース調査を行うことになりました。健診時に追加の調査などがございますが、この調査研究にご理解をいただき、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

**問い合わせ先** 研究事務局 自治医科大学地域医療学センター 准教授 石川鎮清  
〒329-0498 下野市薬師寺3311-1 ☎58-7394